

一般ユーザーへのアピールの場としてのデザイン賞

杉山和雄

SUGIYAMA Kazuo

景観・デザイン委員会 デザイン賞選考小委員会委員長

フェロー会員 千葉大学大学院教授

ユーザーからみた土木構造物

車で走っていて道路から見える風景に感動することはあっても、その道路そのものに感動する一般ユーザーはまずいない。しかし、もしその道路が違う箇所を通過していたり、道路のしつらえが悪かったりした場合には感動を与えた風景にめぐり合うことはなかったことを考えると、もう少しその道路の計画や設計の上手さを一般ユーザーに知ってもらいたいと思う。ユーザーは、道路の計画・設計についての知識はもちろんのこと、十分な情報に接する機会も少ないため、自身が車を購入する時のように、道路においても技術者はいくつもの選択肢を考案し、その中から最適な案を選択、創造しているということには思い至らない。ユーザーは、より安全に、より快適に、より環境にやさしい道路の建設に向けてのさまざまな工夫や努力を知ることによって、初めてその道路の計画や設計の上手さを理解し、道路そのものに感動することができる。土木構造物は黒子に徹し、ユーザーが道路から見える風景に感動してくれているならそれでよいという考え方もあろう。しかし、土木施設に対して一般ユーザーの理解が深まることは望ましいことでありこそすれ、弊害など何一つない。まして土木構造物に対する説明責任が問われている今日では、機会をとらえては、計画・設計した構造物に対する説明を行うべきであろう。

説明の場としてのデザイン賞

土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞は、道路に限らずあらゆる土木構造物を対象として、特に景観的、デザインの観点に照らして優れた作品と、その空間や構造物の形態を発想し、あるいは形態や景観全体をひとつにまとめあげるに際して実質的に貢献した人々に敬意を表し、表彰する制度として3年前に発足したものである。つまり、本デザイン賞は土木技術者のデザイン技術の向上に資することをその目的とするとともに、一般ユーザーに対しては土木構造物の景観的・デザインの観点に照らした「説明の場」でもあるのである。一般ユーザーが、計画、設計、施工等に携わった人の顔が見えるほどにその構造物に対する理解を深めるならば、その構造物に対して感動を覚えることはもちろん、その構造物の存在自体を誇りに思うに違いない。

幅広い景観・デザインの観点

公共施設として土木構造物が存在する以上、人々に対する配慮の欠けた構造物などあり得ないはずである。しかも、景観・デザインの観点とは、狭い意味での美の問題に限っているわけではない。バリアフリーとかユニバーサルデザインという言葉に見られるように、弱者に対する配慮等も包含し、本デザイン賞の重要な着眼点となっている。その意味では、人々に対する配慮の大半は景観・デザインの観点とオーバーラップしていることが多い。このように考えると、本デザイン賞への応募が相応しくない土木構造物というのはきわめて少ないものと思われる。当該の土木構造物において配慮した事項を本デザイン賞を通して大いにアピールしていただきたい。

事業者の応募を期待したい

過去2回のデザイン賞では、設計コンサルタントが中心となった応募が多く、事業者が中心となった応募は少なかった。しかし、説明責任の場としても本賞を活用していただくという観点からは、事業者の積極的な応募を期待したい。ことに橋と川を一体として整備した事例や、さらには周辺地域をも取り込んで整備した事例では、個々の設計はそれぞれの設計コンサルタントが担当し、全体は事業者が統括していることが多い。そのような場合には事業者がその全体を語らなければ設計コンサルタントでは難しい。土木事業が単体ではなく、総合的な整備を目指しているのだということを一般ユーザーに知ってもらうためにも、事業者の積極的な応募を期待したい。

景観・デザイン委員会 デザイン賞の特色

選考小委員会事務局

本賞の正式な名称は「土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞」(略して「土木学会デザイン賞」もしくは単に「デザイン賞」)である。2001年度に創設し、今回が三度目の開催となる。第1回は64件の応募に対し5件の最優秀賞と12件の優秀賞を、第2回は40件の応募に対し3件の最優秀賞と10件の優秀賞を授与した。

公募と褒賞の対象について

本賞では、道路・街路・駅舎・河川・海岸・港湾・空港などの土木空間や、橋梁・堰堤・水門・閘門・堤防などの土木構造物を対象として、特に、その周囲との景観的、空間的関連の持たせ方や、当該の空間・構造物に対する機能的要請を美的にどう解決したかという観点に照らして、優れた作品を公募する。

本賞では、空間や構造物の形態を発想し、あるいは形態や空間全体を一つにまとめあげるに際して実質的に貢献した人々および組織に敬意を表したいと考える。したがって、褒賞の対象者は必ずしも設計部門に属するとは限らない。その形態が計画段階の発想に多くを負っている場合、施工部門からの助言に多くを負っている場合、さらには計画や制度の運用、組織の活動などによって価値ある形態もしくは景観が保全された場合などが考えられ、事業者や施工者、計画や制度の立案者、非営利組織(NPO, NGO)など褒賞の対象はさまざまである。

本賞の特色

本賞は、土木学会田中賞、日本建築学会、日本造園学会等の設計関連の諸賞の長所を取り入れながら、独自の選考方式を採用している。まず、公募対象を広く公共的な空間や構造物に求めている。新たに生み出された空間や構造物だけでなく、計画や制度の活用や組織の活動により景観創出や景観保全がなされたような場合も対象に含まれる。ただし、土木空間や土木構造物を竣工直後に評価することは難しいとの考えから、公募対象は竣工後2年以上経過したものとしている。今回の公募は2001年8月31日以前に竣工したものを対象とする。

また、応募資格は「主な関係者」のうち1名以上が土木学会個人会員であることである。

公募に際しては、選考委員がそれぞれの選考のポイントをあらかじめ公開することになっている。選考結果は、

Web サイト、学会誌、各種メディアなどで公表され、授賞作品は「作品選集」に掲載される。

選考の流れについて

選考は7名の選考委員によって組織された「デザイン賞選考小委員会」によって行われる。

まず規定審査によって応募書類の不備や応募条件などがチェックされる。規定審査通過後、一次選考会(書類審査)において、本賞の趣旨および各選考委員の選考のポイントに照らして、応募作品が一定の水準に達しているかどうかが審議される。

一次選考会後には選考委員が分担して現地調査を行い、応募書類に示された内容と現状とを照合し、あわせてスケール感、周辺地域との関係を含めた作品の評価を行う。二次選考会では現地調査の結果に基づいて最優秀賞および優秀賞に該当する作品を決定する。ただし最優秀賞は該当なしとなる場合もある。

応募手続きとスケジュール

募集要項、応募書類の書式等は、景観・デザイン委員会のWebサイト(<http://www.jsce.or.jp/committee/lisd/>)に掲載中である。

応募に際し、E-mailによるエントリーをお願いしている。エントリー期間は8月15日まで、応募書類受付期間は9月1日から9月13日(消印有効)である。

応募にあたり、「主な関係者」の選定や事業者、設計者、施工者等との調整に比較的時間がかかることが予想される。エントリー後に関係者の調整が間に合わず応募を断念した例もあるので、早めの調整をお願いしたい。

選考は9月から1月にかけて行い、2004年2月初旬には選考結果を公表する予定である。2004年5月開催予定の授賞式では、受賞者による作品プレゼンテーション、選考委員による講評およびディスカッションを行う。

本賞に関する問い合わせ窓口は、デザイン賞選考小委員会事務局(prize@keikan.t.u-tokyo.ac.jp)である。一般的な質問は上記WebにFAQを用意しているので、こちらも参照されたい。



杉山和雄（委員長） 千葉大学教授（土木造形）

著書：「橋の造形学」他

作品：ワールドカップ橋（韓国／競争設計第1位）・麗水-高興連陸連島橋形式選定国際公募第1位

構造物や空間自体に構造的・デザインの工夫があり、その構造物や空間のありようが周辺環境の中で必然性を感じさせるものを取り上げたい。新しい工夫を大いに歓迎するが、新しくなくとも丁寧なまとめるために行った工夫にも着目したい。



石川忠晴 東京工業大学教授（環境水理）

著書：「流体の非線形現象（分担）」、「地球時代の自治体環境政策（分担）」他

水に関わる構造物について、水工学的合理性と空間設計との調和をどのように工夫したか、また構造物としての機能や力学的骨格に人の目を向けさせる工夫があるかに着目したい。個人的には、素材の特徴を生かしたあっさり味の料理が好きです。



石橋忠良 東日本旅客鉄道(株)構造技術センター所長(構造,施工)

著書：「鉄道橋II（コンクリート構造）」

土木構造物はその地域に長期間存在し続ける。この長期間、気持ち良い存在とし続けるように配慮したデザインとすることは全ての土木エンジニアの当然の努めである。周辺環境と調和し、かつ構造合理性、建設コスト、維持管理までも十分に配慮されたデザインを評価したい。



加藤 源 (株)日本都市総合研究所代表取締役(都市デザイン)

著書：「都市とデザイン」、「都市再生の都市デザイン」

作品：丸亀駅周辺地区都市デザイン、旭川市“北彩都”地区都市

デザイン 他

土木施設は都市空間や自然の中で、単に単体として存在するのではなく、周辺との関係において魅力的な空間を構成し、また景観の価値を高めていることによって、そのデザイン性が評価される。このためには周辺への働きかけが求められ、そこでは制度、手法上の工夫、多様な機関、組織との調整が必要となる。



川崎雅史 京都大学助教授（景観デザイン）

著書：「公共空間のデザイン」、「シビックデザイン」他

人、施設空間、景観の関係性を仕組んだ計画があって、それが形や空間として美しく意匠表現されているかどうか、そこに空間の風景が成立しているかどうかを確かめたい。ランドスケープ、都市、エンジニアリングアーキテクチャの融合としてのシビックデザイン、新たな都市文化を萌芽させる空間を期待しています。



齋藤 潮 東京工業大学大学院教授（景観論）

著書：「景観用語事典」他

作品：新潟港トンネル掘削部擁壁、石巻鹿又高架橋連続BOX他

竣工に至るいかなる労苦談も、解説のための美辞麗句も無視し、ただ結果だけを素直に眺めるという態度を己に課すつもりです。デザインという生々しい作為を作品そのものが超えられるかどうかは謎だと思います。



内藤 廣 東京大学大学院教授（建築デザイン・景観デザイン）

著書：「建築のはじまりに向かって」他

作品：海の博物館、安曇野ちひろ美術館、牧野富太郎記念館、倫理研究所富士高原研修所 他

技術、制度、文化、経済の葛藤の中で、それを美しい形に昇華させたもの。私を犠牲にして公の価値を生み出そうとするシビルエンジニアの魂に通じるもの。過去と未来への眼差しが広くて深いもの。感動をとまなうもの。そうしたものを独断と偏見をもって選びたいと思います。

2002年度デザイン賞受賞作品介绍

2002年度は橋梁6件、河川3件、道路・街路2件、駅前広場2件が受賞対象に選ばれた。作品の詳細や選考委員の講評は景観・デザイン委員会 Web サイト (<http://www.jsce.or.jp/committee/lsd/>) に掲載されている。また、受賞作品を掲載

した「作品選集 2002」を発行している (A5判 52ページ。頒布価格 800 円。購入申込み先: デザイン賞選考小委員会事務局 prize@keikan.t.u-tokyo.ac.jp)。

最優秀賞



日光宇都宮道路 (栃木県宇都宮市～日光市)
[主な関係者] 松崎喬, 平賀潤, 日本道路公団東京支社日光宇都宮道路工事事務所, (財) 高速道路調査会道路景観研究部会, (社) 道路緑化保全協会
[事業者] 日本道路公団東京支社日光宇都宮道路工事事務所



小浜地区低水水制群 (熊本県玉名市)
[主な関係者] 坂田光一, 中尾昌樹, 後田浩二, 山崎安彦, 中山穰
[事業者] 国土交通省九州地方整備局菊池川工事事務所



鮎の瀬大橋 (熊本県矢部町)
[主な関係者] 大野美代子, 永木卓美, 林田秀一, 荒巻武文, 八束はじめ
[事業者] 熊本県

優秀賞



堺町本通 (北海道小樽市)
[主な関係者] 大塚英典, 鎌田久美男, 角田洋, 八馬智, 木村利博
[事業者] 小樽市土木部建設課



銀山御幸橋 (秋田県雄勝町)
[主な関係者] 高橋恵悟, 桜木洋子, 松の木7号橋技術検討委員会, 加藤修平, 須合孝雄
[事業者] 秋田県土木部道路建設課



ふれあい橋 (栃木県小山市)
[主な関係者] 松井幹雄, 小山市都市整備委員会, 板橋啓治, 三浦聡, 高柳乃彦
[事業者] 小山市



浦安 境川 (千葉県浦安市)
[主な関係者] 小野寺康, 南雲勝志, 太田雄三, 千葉県葛南土木事務所河川改良課, 浦安市建設部土木課, 篠原修
[事業者] 千葉県葛南土木事務所河川改良課・浦安市土木課



おゆみ野駅駅舎・駅前広場景観設計 (千葉市緑区)
[主な関係者] 西沢健, 印南比呂志, 小林信夫
[事業者] 住宅・都市整備公団 (都市基盤整備公団)



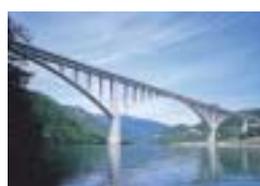
東岡崎駅南口広場-ガレリアプラザ (愛知県岡崎市)
[主な関係者] 瀧光夫, 渡辺茂樹, 丹羽康文
[事業者] 岡崎市土木部道路建設課



スプリングスひよし展望連絡橋 (京都府日吉町)
[主な関係者] 團紀彦, 針谷賢, 上垣内伸一, 廣田裕一, 志村勉
[事業者] 京都府日吉町



津和野川河川景観整備 (島根県津和野町)
[主な関係者] 岡田一天, 村木繁, 竹長常雄, 島根県津和野土木事務所, 篠原修
[事業者] 島根県津和野土木事務所



池田へそっ湖大橋 (徳島県池田町)
[主な関係者] 望月秀次, 安藤博文, 牧田淳二, 石原重孝, 木暮雄一
[事業者] 日本道路公団四国支社



南風原高架橋 (沖縄県西原町～南風原町)
[主な関係者] 橋本晃, 沖縄総合事務局南部国道事務所, 上間清, 龍谷幸二, 森尾有
[事業者] 沖縄開発庁沖縄総合事務局